

『豊臣秀次の城下町近江八幡を訪ねる』

2020年2月15日(土) 9.8 km



八幡城跡

現在は石垣を残すのみですが、本丸跡には秀次菩提寺の村雲御所瑞龍寺(むらくもごしよずいりゆうじ)が京都から移築されています。また、秀次館跡からは金箔瓦が多数出土し、とくに秀次の馬印である沢瀉紋(おもだかもん)の飾り瓦が発見されるなど築城当時の豪華さが伺えます。

豊臣秀次(1568~1595)について

豊臣秀吉の姉・ともの子。秀吉の養子となり関白職を継ぎましたが、後に秀頼が生まれ、後継者を巡る争いにより自害させられました。八幡公園には開町の祖・秀次の銅像が建てられています。

八幡堀

八幡堀は、安土・桃山時代に豊臣秀次の八幡山城居城のもと、城下町が栄える原因となった町の一大動脈です。

近江商人の発祥と発展、また町の繁栄に八幡堀は大きな役割を果たし、江戸時代後期には近江国において大津と並ぶ賑わいを見せたといえます。昭和初期までは、常に町の人々の経済・流通路でしたが、戦後は陸上交通の発展によって廃れました。堀に沿って、白壁の土蔵や旧家が立ち並び、華やかだった当時の様子をよく伝えています。日牟禮八幡宮の大鳥居をくぐったところに、堀に白雲橋がかかり、橋からは、かつて全国各地から送られてきた物産を一時保管した土蔵が見られます。近年になって、観光名所として整備され、船着き場などが復元されました。

日牟禮八幡宮

誉田別尊(ほんたわけのみこと)・息長足姫尊(おきながたらしひめのみこと)・比売神(ひめかみ)の三神を祭神とする旧八幡町の総社で、平安時代の創建と言われ、九州の宇佐八幡宮の神霊を勧進したと伝わります。

約4万平方メートルという広大な神域はエノキやムクノ樹が生い茂り、その下を通り抜けて楼門をくぐると、拝殿・神殿が続きます。寺宝には、江戸時代に海外貿易に活躍した商人西村太郎右衛門が寄進したという「安南渡海船額(あんなんとかいせんがく)」をはじめ、祭神である三神の木像などがあり、いずれも国指定の重要文化財になっています。

また、毎年3月には左義長まつりという祭礼が行われ、4月には八幡まつり(松明(たいまつ)祭・太鼓祭)が行われます。どちらも近江八幡を代表する火祭り事であり、遠近から訪れる多くの人々で賑わいます。

JR 近江八幡駅

スタート

5.1 km

八幡公園 (5.1 km) / WC・昼食

0.5 km

日牟禮八幡宮 参拝 (5.6 km) / WC

0.2 km

八幡堀 (5.8 km)

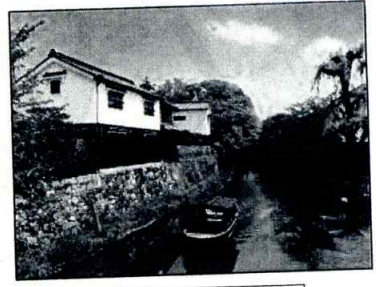
0.7 km

近江商人の町並み (6.5 km)

3.3 km

JR 近江八幡駅 (9.8 km)

ゴール



「八幡堀」

大津・京都方面			
近江八幡駅	14:09	14:26	14:56
大津駅	14:34	14:58	15:28
山科駅	14:38	15:02	15:32
京都駅	14:43	15:07	15:37

長浜・米原方面			
近江八幡駅	14:34	15:04	15:34
彦根駅	14:48	15:18	15:48
米原駅	15:01	15:26	16:01
長浜駅	15:11	15:35	16:11
木之本駅	15:25	—	16:25

仲間ウォーク三カ条

- 一、交通ルールを守り右側2列で歩きます。
- 一、先導の旗に従いみんなのペースで歩きます。
- 一、無理をせず体の調子を考え歩きます。